

山岳トレインで開催された大阪全日本。あの急峻な「みのお」でどんなことを考えてコースが設定されたのか。

コース設定のコンセプト

今回の全日本で使った「みのお」は典型的な関西の山岳トレイン。急峻ではあるが、地形は変化に富み、微地形も随所に見られる。どうしてもアップが多くなるので、それをいかに抑えつつ、体力的要求だけでないテクニカルなコースを組むかがポイントになる。

アップを抑えるため、スタートは会場付近でできるだけ高く上げることとした。ある程度のスペースが必要なこともあり、結果的に以前の大阪 OLC 大会と同じ場所となった。

フィニッシュは、新たに調査して使えるようになった南東の尾根を生かすため、会場とは離れるが尾根を下ってきた場所とした（当初希望した場所の使用許可がおりず、窮屈な場所となってしまったが）。

このトレインで、ショートレグに適した部分は、



- (1) スタート直後に使った「オが原池」東側の微地形地帯
- (2) M21E の ・ あたりのある中央部分
- (3) 終盤で使った南東の尾根とその間の沢エリア

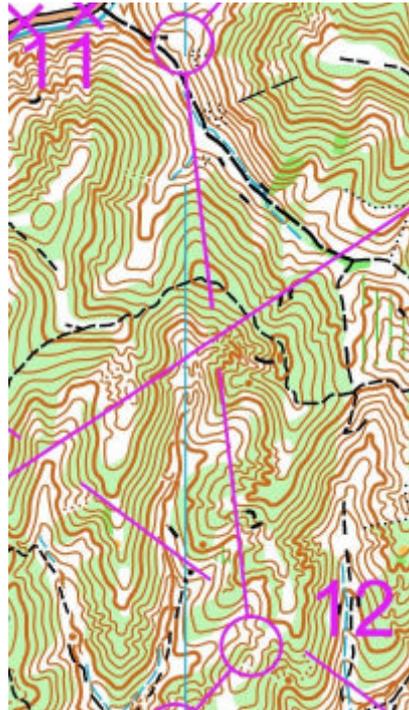
と考え、大きくは(1) (2) (3)をコースの流れとした。そのうえで、長いコースは途中でロングレグを入れ、クロスもさせて距離を伸ばし、Bクラスや最も短い方のクラスは、後半の尾根に登らせるのをやめ、沢道を下るコースとした。

私自身、最近の大会ではむやみにコントロールを置きすぎるのではないかと問題意識を持っていた。Eカードの導入でコントロール数を多くしやすくなったから、「置きたい場所」にすべてコントロールを置いてつないだようなコースも多いように思う。そこで今大会では、長いコースではできるだけ効果的なロングレグを入れると共に、不要なコントロールを置かないことを意識したコース設定とした。

選手権クラスのコース

全日本の M21E、W21E は、その年のロングディスタンの日本チャンピオンを決めるコース。しかも今年は世界選手権の選考会を兼ねているので、何としてもロングディスタンスらしい総合力を要求するコースを組みたかった。

キーになるのは、ルートチョイスを含む効果的なロングレグ。しかしこの箕面のトレインは多くのハイキング道が発達しているため、長い距離のレグでは簡単に道走りが見えてしまいやすい。試行錯誤のうえ決めたのが、M21E の 、 、 、 W21E の 、 、 (M21E の と共通) などである。例えば W21E の は北の尾根ルートか南の沢ルートかの選択、M21E の では東の沢、中央の尾根、西の沢の選択を迫った。



コースは、これらのロングレグを軸に、距離を延ばすためのクロスや、ショートレグを組み合わせ、全体としてメリハリをきかせることを心がげた。特に M21E では、地図に慣れていない序盤と疲れている終盤に集中力を要するショートレグを置いた。これは同様のコンセプトで組まれていた愛知の WOC のロング決勝を参考にしたものである。

大会後、エリートのトップ選手たちのブログなどを拝見すると、前のマップの研究から、上記のロングレグもかなり読まれていたようである。さすがはトップ選手、運営者がいくら知恵をしばったつもりでも、その上をいく準備をしてくることを実感した。

難しいウイニングタイム

コース設定者に要求されているのは、

- (1) コントロール位置に問題がなく公平なコース
- (2) 多様な課題を要求するおもしろいオリエンテーリングの提供
- (3) クラスに応じた適切な距離の3つだと考えている。

ウイニングタイムは、M21E では設定どおりなど E クラスでは概ね妥当だった。一方、M21A で設定時間 80 分に対してトップが 65 分を切ってしまうなど、設定時間から大きく外れるコースを出してしまった点は反省している。M21A の上位 2 人が想定外のタイム (M21E のトップよりキロあたり時間が早い) だったなどの事情もあるが、試走タイムからの計算に甘さがあった。

少し裏事情を書くと、最終の試走会は 2 月 3 日に雪の中で行われ、想定より大幅にタイムがかかった。その結果を見て、参加者の安全も考えてコースを短めに調整したのだが、その結果短すぎるコースが出てしまったようである。

今大会に限らず、コース設定についてはまだまだ改善の余地があると認識している。今後も、全国のコースを設定に携わる皆さんと、意見交換をさせていただきたいと思っている。

(瀧川英雄)